

診療最前线 日高支所家畜高度医療センター

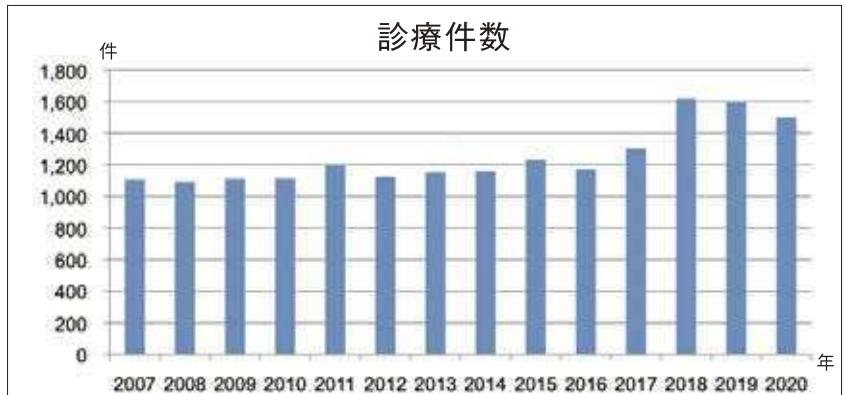


図1、診療件数(全身麻酔下処置、立位診察、処置、各種検査、全て含んだ件数)

このコーナーは今まで家畜の診療についての記事が中心でしたが、今回は日高支所家畜高度医療センターについて紹介します。

当センターは現在5人の獣医師と3人の業務職員が勤務し、来院してくる患畜の2次診療を行っています。

獣医師は2000年に3人から4人、2018年には5人に



当歳馬の臍ヘルニア整復

なりました。それに伴い診療件数も増えています(図1)。また、2003年に診療棟の増改築が行われ診療効率が上がったことも診療件数に対応できる大きな要因です。

最も多い手術は馬の関節鏡手術で、年間250件以上実施しています。次いで大結腸捻転などの開腹手術が年間130件あります。他にも上部気道疾患、骨折、難産整復、去勢、外傷、眼科疾患、当歳馬の肢軸矯正などに対する手術や各種検査を行っています。

牛の診療は、現場で対処できない整形外科症例、開腹手術を要する急性腹症、臍周囲の疾患など年間40～50件程度あります。

繁忙期は次から次へと搬入される患畜や急患への対応で殺伐

とした空気になることもあります。しかし、和やかに？日常業務をこなしています。

平日の午後は代で血液検査と細菌検査を行っています。

敷地内にある新ひだか町所有の死亡獣畜焼却場に毎日のように搬入される牛馬の病理解剖も行います。外科と解剖は密接な関係がありますので、外科手術を行う私達としてはいい勉強になります。

当センターは1976年の開設以来、国内では数少ない大動物2次診療施設として確固たる地位を築いてきました。海外に目を向けても診療件数、内容は引けを取りません。

診療以外にも多くの獣医学科学生や獣医師の研修・実習の受け入れや、講演・講義の依頼を受けています。また研究発表や論文執筆も積極的に行っています。

「ここには来ない方が良いんだけどな…」とおっしゃる牧場の方も多いのですが、1頭1頭の患畜に真摯に向き合う獣医師と、ミスをする業務職員がスクラムを組みOne teamで対応しますので、急患や外科症例、詳細な検査を要する難治性疾患などありましたら是非ご相談下さい。

(獣医師・佐藤正人)



獣医師会講習会